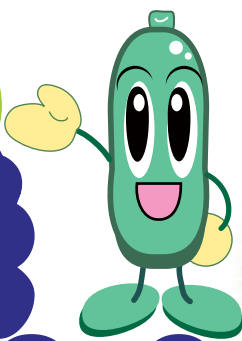


新品種誕生!

久留米 きゅう太郎



※商標登録出願中



ZYMV 抵抗性品種

近年激しく気候が変化する中、
キュウリには多くのウイルス病が報告され、
特に「ズッキーニ黄斑モザイクウイルス(ZYMV)」は、
露地栽培において多く発生し、大きな問題になっています。
ZYMVに感染したキュウリは、葉に激しいモザイク症状、果実には奇形を生じ
急性萎凋によって枯死する場合もあり、栽培農家は大きなダメージを受けています。
そこで私どもは、高品質、多収性、また耐暑性、省力性にも優れた、

ZYMV 抵抗性の新しい品種を育成しました。

特 性

雌花率

5月 主枝:70~80% 子枝:90~100%
7月 主枝:40~50% 子枝:80~90%

果 実

果重 100g で
果長 21~22cm の光沢ある濃緑色。

草 勢

主枝一茎は中太で徒長しにくい。
子枝一ゆっくりと順次発生する。
孫枝一放任

収 量

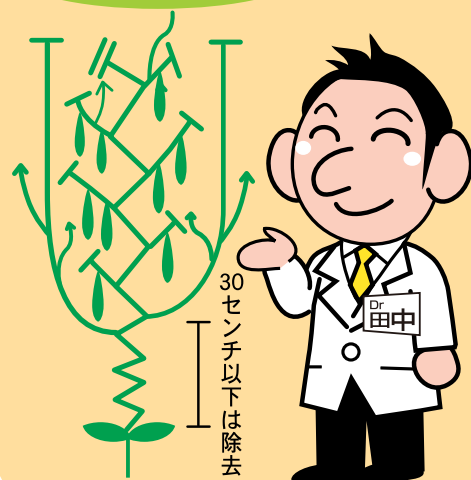
安定した雌花着生で果実肥大早く多収。

栽培のポイント

- 適合作型は、5月~7月蒔きの露地栽培。
- 元肥は緩効性の有機質肥料を主体にやや多めに施し、本葉2.5~3枚の苗を定植する。定植後は十分灌水を行い、活着を促進させ思い切った樹作りを行う。
- 雌花の着生率が高く肥大が早いため、収穫開始時より追肥を始め、肥料切れを起こさないように早めに追肥を施す。
また、成り疲れや高温、水分不足、肥料切れによる曲がり果、尻太果が発生した場合は早めに摘果を行い、草勢の回復を図る。
- 活着不良や、草勢が弱い場合は主枝下段10節位まで摘果を行い、草勢の回復を図る。
- 枝の発生が初期よりゆっくりな為、側枝は摘み急がず、安定した草勢を維持する為に**必ず成長点を2~3本確保する**。
収穫開始以後は摘葉中心の管理とする。

※注意点 特異質な母系統の為、ギザ葉の発生が見られた場合は苗の段階で除去する。

整 枝 法



2008年5月新発売!

4月よりご予約承ります。発売初年度につき売り切れの場合はご了承下さい。

<http://www.kyutaro.jp/>

kurume@kyutaro.jp